

# 6年 音楽科学習指導案

授業者 山村 光稀

## 1. 題材名 「いろいろな音のひびきを味わおう」(器楽)

教材名 「最高到達点」(SEKAI NO OWARI)

## 2. 題材の目標

○主な旋律、かぎりの旋律(副次的旋律)、和音、低音のそれぞれの役割を理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身につける。 [知識及び技能]

○音色、リズム、旋律、音の重なりなどを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 [思考力、判断力、表現力等]

○様々な音色が重なって生まれる響きを味わいながら、聴いたり表現したりする学習に主体的に取り組み、様々な楽器の音色の響きに親しもうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

## 3. 子どもと題材

本学級の子どもは、自分の思いを素直に表現することができる。4月に委員会決めを行った際には、希望する委員会に対する思いを一人ひとりが学級全体に向けてスピーチした。「僕が放送委員会に入ったらこの附属小をもっと盛り上げたい」「去年できなかつた音楽委員のプロジェクトを実現させたい」など、それぞれの思いを伝え合つた。また、運動会の応援練習やつどいに向けての話し合いでは、自分が思っていることを思い思いに発言し、話し合いが進んでいくことが多い。普段発言が少ない子も、グループの中では発言したり、振り返りに自分の思いを書いたりする姿があり、自分なりの思いをもつていることが窺える。しかし、自分の思いが強いからこそぶつかりもある。運動会の綱引きでは、「姿勢を低くした方が体重がのせやすい」という考えをもつ子と「低い姿勢だと後ろに引きにくくて耐えるのが難しいからすぐに後ろに引いた方がいい」という考えをもつ子で意見がぶつかった。実際にどちらの作戦も試してみることになったが、手ごたえも人それぞれで、結局どちらの作戦にするかを決めるまで何度も話し合うことになった。「勝ちたい」という思いは同じだが、自分の意見を優先する子が多く、他者の意見を尊重したり、受け入れたりすることがうまくできない様子が見られた。その一方で、応援練習では、応援団長を中心に何度も練習を重ねながら意見を出し合い、お互いの意見を受け入れる姿が見られた。声や動きの大きさはもちろん、全員で動きが揃っているかについても考え、どうすればみんなの動きが揃うのかを話し合つた。また、青組全員が揃うように、朝の応援練習で細かい指示を出したり、各学年の並び方を工夫したりする姿もあった。応援合戦で1位を取りたいという同じ目標に向かって進んだ運動会当日は、下級生に声をかけたり、気合いを入れる円陣を組んだりと青組が一つになって取り組む姿があり、練習の成果を発揮することができた。このように、一人ひとりの思いが強いからこそ、ぶつかることもあるが、それらが重なることで何かをつくり上げた時の達成感や満足感は大きくなるだろう。さらに、他者の意見を尊重したり、受け入れたりすることによって、全員でつくりあげる喜びを味わってほしい。

音楽の授業で「つばさをください」の合唱を行った際には、歌詞から読み取れることを共有した。同じ歌詞でも捉え方が違うことを共有し、作詞家の意図をどう伝えていくかについての自分の考えを伝え合つた。ソプラノとアルトに分かれて練習した後、初めて二部合唱を行った際には、各自が思うままの表現の仕方で歌う姿があった。歌うことを楽しんでいる様子は見られたものの、みんなで音を合わせるという意識はあまりないように感じた。実際に、その日の振り返りでは、「自分はきれいに歌えた」「正しい音程で歌うことができた」と個人の振り返りをする子が多く、「もっと声を合わせたい」「ソプラノとアルトのバランスに気を付けたい」という思いをもつ子は少数だった。次時で自分たちの歌つた動画を見返した子どもは、ソプラノとアルトの音程やタイミングが揃っていないことに気付き、音

を合わせるための方法として「指揮者が必要」「メトロノームを使う」「タンバリンなどの楽器を入れたらどうか」などの意見を出し合った。そして、実際に指揮者を立てて練習し、音を合わせようとする意識を高めていた。このような様子が見られるからこそ、音を合わせることに着目し、合わせることで得られる達成感や満足感を味わってほしいと考える。

今回の題材は「音色」に焦点を当て、曲想と音楽の構造との関わりを捉えていく。扱う楽曲は「最高到達点」(SEKAI NO OWARI)である。この曲は、人気アニメの主題歌になっており、子どもにとって聴きなじみのある曲であるとともに、主な旋律は8分音符が多く使われており、拍を感じたりタイミングを合わせたりしやすい構成になっている。また、曲の構成を主な旋律、かぎりの旋律(副次的旋律)、和音、低音パートに分け、それぞれの役割を理解しながら学習を進めていく。そのため、様々な楽器の音色の組合せから生まれる響きの美しさや豊かさなどを味わいながら音楽を聴いたり、パートの役割を理解して全体の響きの中で音色や音量のバランスなどを工夫しながら合奏したりできるだろう。「音色」に焦点を当てたり「合わせる」を意識したりすることで、友達の演奏をしっかりと聴き、音を合わせて表現する喜びを味わうことができると考える。また、楽譜通りに演奏することではなく、みんなで音を合わせることをねらいとしているため、できない部分は同じパートで補ったり自分が挑戦できそうなフレーズのみを演奏したりと楽器演奏が苦手な子も得意な子と一緒に演奏することができ、どの子も前向きに取り組むことができるのではないかと考える。みんなで完成させる合奏だからこそ、主な旋律にはどの音色を選ぶか、木琴と鉄琴の音の重なりはどうかなど、活動する中で試行錯誤する場面も多く見られるだろう。その際に、どうしてその楽器の音色を選んだのか、音を合わせるためにはどんな方法があるかなど、自分の思いや意図をもって表現し、それを伝え合うことでよりよい音楽をつくっていく面白さや楽しさを実感してほしいと願っている。

#### 4. 本題材における『その子らしく学ぶ』～本単元で願う「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの』～

楽器の構成の異なる演奏に出会った子どもは、「音色」の違いに着目し、そこから感じ取ったことを友達と共有し合うだろう。そこで、自分の感じ取ったことと友達の感じ取ったことの違う部分や共通点に気付く。同じ曲であっても楽器の構成によって演奏の雰囲気が異なることに気付いた子どもは、自分だったら何の楽器を使って演奏をしようかと考え始めるだろう。子どもにとって器楽合奏といえば、与えられた楽譜に記譜されている楽器で演奏することだと考えているだろう。そんな子どもにとって、曲に合う楽器を自分で選択することができるという状況は、とても新鮮に感じるだろう。それぞれの楽器の生み出す「音色」の良さに触れた子どもは、実際に自分で演奏してみたいと意欲をもつだろう。そして、曲想に合った「音色」を探す中で、友達の選んだ「音色」と比べたり「音色」を重ねたりしていくだろう。また、曲想のイメージを共有しながらどの楽器の「音色」が合っているかを議論しながら試行錯誤していくだろう。

曲想に合った楽器を選び、グループで仮の楽器が決まった子どもは、楽器の練習を始める。練習をする中で、同じパートを演奏する子ども同士で旋律を確認し合ったりグループで一緒に演奏したりするだろう。誰かと一緒に演奏することで、「音を合わせる」ことを意識し、どうすれば合わせることができるか試行錯誤するだろう。人数が増えれば増えるほど合わせることが難しくなるため、自分の音だけに集中するのではなく、相手の音にも自然と耳を傾けるだろう。また、自分たちの演奏を客観的に聴くために録音し、その録音を聴いた子どもは再び「音色」に着目する。そして、自分たちが選んだ「音色」が曲想に合っているか、それぞれのパートの役割と「音色」が合っているかについて自分の思いを相手に伝え議論していくだろう。そうすることで、それぞれのパートの楽器を決定していくだろう。

グループで考えた楽器の「音色」を使った演奏をお互いに聴き合った子どもは、「音色」の違いによる曲想の違いに気付く。そして、他グループの思いや意図を聴くことで、それぞれのグループの目指す表現にふれ、自分たちでつくり上げる音楽のよさを見出していくだろう。そして、自分たちのグループが選んだ楽器に対する思いをより強くし、目指す表現を明確にしていくだろう。その後、何度も合奏を行い、他者の意見を尊重したり、受け入れたりすることで、全員でつくりあげる喜びを味わったり、自分

の思いや意図をもって表現し、それを伝え合うことでよりよい音楽をつくっていく面白さや楽しさを実感してほしいと願っている。

## 5. 題材構想（全8時間扱い／本時は第⑥時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ

### ① < A と B の曲を鑑賞しよう >

- ・A の演奏の主な旋律は鉄琴だったな
- ・同じ曲だけど使っている楽器が違うと雰囲気がかわる
- ・私は B の演奏のほうが曲に合っていると思ったよ
- ・木琴の「音色」は元気な感じがして、鉄琴の「音色」はやわらかい優しい感じがするよ
- ・自分たちの演奏はどんな楽器を使おうかな

### < 楽譜を見てみよう >

- ・主な旋律、かぎりの旋律、和音、低音の4つのパートに分かれているんだね
- ・一番聞いたことがあるメロディーが主な旋律ってことだね
- ・低音パートは出せる楽器と出せない楽器がありそう
- ・和音はピアノとオルガンで演奏したい

### ② < どんな演奏にしたいか考えよう >

- ・この曲の歌詞は前向きな感じだから「明るくて元気」のクラスのイメージにぴったりだよ
- ・サビの部分はみんなで一緒に主旋律を演奏したらどうかな
- ・どの楽器を使えばいいか決めるためにそれぞれの音色を聴き比べてみよう

### < それぞれのパートに合った楽器を選ぼう >

#### (主な旋律)

- ・一番目立つパートだから木琴や鉄琴で演奏するのはどうかな
- ・キーボードを使って演奏したら元気な音になると思う
- ・主旋律を交代しながら演奏してみたい

#### (かぎりの旋律)

- ・伸ばす音が多いから音が伸びる楽器を使うといいね
- ・固いマレットよりやわらかいマレットの方が曲に合っていると思うよ
- ・主旋律と重ねてやってみたい

#### (和音)

- ・同時に同じ音を3つ鳴らさないといけないからキーボードでやるのがいいんじゃない
- ・キーボードの音色を変えたら和音もいろんな音が出せるよ
- ・3人で一緒に鳴らしたら和音になるかもしれないね

#### (低音)

- ・低い音が出るのはバスマスターだよね
- ・バスマスターとキーボードを重ねてみたらどんな音が出るかな
- ・主な旋律よりも大きくなるとバランスが悪そうだよ

### ○教師の働きかけ

- 「音色」に着目できるよう、楽器の構成の異なるデモ音源を流す。
- 「音色」と曲想との関係に気付くことができるよう、「音色」の違いによって感じたことを共有する。
- 各パートの役割がはっきり分かるように、全パートが載っているスコアとパートごとの楽譜の2種類を用意する。
- 楽曲の構成が分かるよう、パートごとに分かれたデモ音源を流す。

- 一人ひとりの思いを聴き合えるように、学級を半分に分けグループをつくる。

- どんな演奏にしたいかの思いを共有できるよう、ロイロノートを活用し、友達と考えを共有するよう促す。

- 各パートの「音色」が聴けるように、それぞれのパートの音源を準備するとともに、「音色」の異なる音源も用意し、活用できるようにする。

- 「音色」による変化を感じ取ることができるよう、実際に楽器を鳴らしたり友達と「音色」を重ねたりできる環境を設定する。

- パートに合った楽器を仮決定することができるよう、それぞれのパートがどんな役割なのかとそれに合った楽器と選んだ理由が書き込めるカード（ロイロノートで作成）を用意する。

③④⑤

<グループで演奏する楽器を仮決定しよう>

- 自分が考えた楽器を順番に発表していこう
- 私も主な旋律は鉄琴がいいと思ったよ
- デモ演奏の音源を聴いて考えてみよう

(楽器)

- 鉄琴の音色が主な旋律に合っているけど、叩くマレットは固いのとやわらかいのどっちがいいと思う？実際に鳴らしてみるね

(デモ演奏)

- かざりの旋律はリコーダーと鉄琴の音を重ねてみたいから同時に流して聴いてみよう
- それぞれ演奏する人数も考えたいね

< 演奏する楽器を決めて練習しよう >

- 自分が担当するのは主な旋律だからまずはそこから練習しようかな
- どんな旋律だったか忘れちゃったからデモ演奏を聴いてみよう
- こここのリズムが難しいから同じパートの人に聴いてみる
- ある程度演奏できるようになったから誰かと一緒に合わせてみたま
- 一人でやる時はできるけど、誰かと合わせると間違えちゃって合わせるのが難しいな
- 自分の演奏を録音して聴いてみようかな

⑥ (本時) < 別のグループの合奏を聴いてみよう >

- 自分たちのグループとは選んだ楽器が違うな
- 同じ「明るい」を表現しているのに全然違う組み合わせだね
- かざりの旋律の楽器を変えた方がいいと思ったよ

- サビの主な旋律を木琴にしたことで、明るいイメージが伝わっていたからそのままでいいね
- 和音の音が大きすぎて主な旋律が聴こえない部分があったみたいだから、主な旋律の楽器を増やせないかな
- 全体的に揃ってない部分がまだあるから、もっとみんなで音を合わせよう

- 主な旋律よりかざりの旋律の方が目立つ場所があったみたいだから主な旋律の楽器が目立つようしたいね
- サビで「元気」を伝えるために、主な旋律を演奏する人を増やしたい
- イントロの部分は木琴と鉄琴の音の重なりがきれいだったから、このままにしよう

⑦ < 完成に向けて、自分たちの演奏を見直そう >

- A グループの演奏を聴いて、もう少しサビの主な旋律を大きくするために、楽器を増やすのがいいと思ったよ
- B グループからサビの前が合ってないってアドバイスをもらったからもう少し合わせることを意識してみよう

○グループでの話し合いによって楽器を仮決定することができるよう、部屋を第1音と第2音に分ける。

○担当する楽器を決めるだけで授業の時間が終わることのないように、楽器を担当する人数や使用する楽器について、グループを周りながら声をかける。

○楽器の「音色」が曲想に合っているかを判断できるように、デモ音源には、パート別の音源と全体合奏の音源を用意し、いつでも聴けるようにクラスルームに提示する。

○同じパートで合わせたり友達と一緒に音を重ねたりできるように、練習できる場所をグループで分け、練習する時間を確保する。

○自分たちの演奏を相手に聴いてもらうができるように、生演奏か事前に録音した音源を流すかを決めておくことを伝える。

○自分たちの演奏を振り返ることができるよう、お互いの演奏を聴いて感じたことを子どもと共有する。

○「音色」「旋律」「拍」「音の重なり」などの音楽的要素や仕組みを意識できるように、キーワードの言葉を提示する。

○自分たちで気付いたことや別のグループからアドバイスされたことを思い出せるように、前時で共有したことの資料としてクラスルームに提示する。

⑧ < 「最高到達点」発表会をしよう >

- ・この前聴いた演奏からどう変化したのか聴くのが楽しみだな
- ・たくさん練習して自信があるから聴いてもらえるのが嬉しいな
- ・みんなでたくさん練習した成果を発揮したい

(音色)

- ・「明るさ」や「元気」を伝えるために木琴や鉄琴の「音色」を多く使って演奏しているところが良かった

(音の重なり)

- ・和音の部分をキーボードと木琴で音を重ねているところがはつきり分かって良かった

(リズム) (拍)

- ・サビの前の部分を全員で演奏することで音を合わせようという意識が伝わってきてとても良かった

(旋律)

- ・主な旋律とかざりの旋律を木琴とリコーダーで演奏している部分のバランスが良かった

- ・木琴とキーボードの「音色」を合わせたらきれいだった
- ・自分たちで楽器を決める合奏は初めてだったけど、「音色」を工夫して曲がつくれたから面白かった
- ・音を合わせるために指揮者やメトロノームを活用できた
- ・みんなで音を合わせて音楽をつくるのが楽しかった
- ・今度はまた別の曲でも合奏をやってみたい

○どこを意識して合奏するかを共有してから演奏するために、グループで確認し合う時間を確保する。

○お互いの演奏を聴いた感想を伝え合う際に、音楽的な要素や仕組みを意識できるように、何に着目したかが分かりやすいように分けて板書する。

○どこを工夫したか、どんな音楽を目指したか、また、そのためにどんなことをしたかを振り返ることができるよう、これまでの振り返りシートを見てから振り返りを書くように声をかける。